

2017 学校評価公表シート

岩見沢聖十字幼稚園

1、園の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> •あかるい子ども •元気な子ども •かっこいい子ども •やさしい子ども 	聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども 豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども 悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども
--	---

2、本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

・自由遊びの研修と保育環境の整備・充実 ・教職員の力量向上と待遇改善 ・50周年事業と全道PTA大会の成功

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。	・園の教育理念・教育目標を教職員が理解し、具現化するためのカリキュラムを組み立てている。今年度は特に自由遊びの意義と具体的な環境づくりや指導方法についての研修と話し合い・実際の作業を多く持つことができ、全職員が一致した方向で自主的に進むことができていた。また、50周年記念事業に取り組み中で、設立以来の園の保育方針を教職員が再確認することができた。
・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。	・自由遊びや自然に触れる活動、食育などを大切にしながら、園児の発達に合わせた多くの活動をきめ細やかに配置し工夫しながら実施している。特に遊びの環境が整いつつあり、子どもたちの自主的な活動が飛躍的に増えた。
・安全で清潔感のある環境構成をしている。	・毎日の丁寧な清掃と、危険個所のチェックを多くの教職員で行い、報告のあった個所についてすぐ対応するよう努めた。感染症対策の研修への参加や園内研修を行い、全職員が適切な行動をとれるよう改善した。保護者への感染症発生のお知らせや園閉鎖等の対策により感染症の拡大を防ぐ努力を行った。
・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。	・配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、こまめに情報共有することで、チームとして個々の保育にあたることができた。また、特別支援の必要な園児に対する指導方法の研修や、関係機関・病院などへ保護者と同行するなど、保育方法の改善に役立った。
・保護者との信頼関係を築くように努めている。	・家庭訪問、個人懇談、親子レク、送迎の時間、お便りノートなどを使って園児の様子を保護者に伝える努力をしていた。また、ホームページで日々の保育の様子をきめ細やかに伝えている。今年度は園庭づくりに多くの保護者が参加してくれたこともあり、教職員との距離がぐっと縮まった。
・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。	・森での活動やすり山登山、田植え・リンゴ狩り等、ふるさとの自然を生かした活動を行っている。また、環境教育でのゴミ拾い、老人ホーム慰問、バザー・フェスティバル、収穫感謝の餅つき、歩くスキー等、様々な場面で地域の方との交流の機会も多い。今後も地域に根ざした保育を行いたい。
・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。	・特別支援教育に関する法人内研修では北翔大学の先生から指導を受けることができた。(年5回札幌での研修に参加のほか年2回園に招いての研修)・遊び環境に関する研修は、東京から2名の専門家を招いて、年間12日の研修とワークショップを行うことができた。これにより教職員の専門性が飛躍的に高まった。
・人事管理・財務管理を適正に行う。	・公認会計士により、適正に運営されていると認められている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	創立50周年記念事業や園庭改造などの取り組みを通じ、全教職員と保護者が一つの目標に向かって一致して協力することができた結果、園長および教職員の自己評価と保護者・関係者の評価はおおむねAであった。年々、共働きの家庭が増えており、幼稚園でありながらも保育日数や預かり保育についての要求が増えてきているが、同時に教職員の労働状況の改善も必要なため、これらのバランスをとるのが大変難しい。その中でも教職員数を増やし、できる限り開園日数を確保しながら要望に応じている。また、教育相談にも力を入れており、個別支援をきめ細やかに行っていることで、「もっと研修したい」「もっと連携したい」という前向きな意識が生まれている。次年度以降も、保護者と細やかに連携しながら、必要な研修に時間や費用を適切にとり、園全体の質を高めていきたい。
---	---

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	・引き続き園庭改造と園内環境改造が行われ、さらに大規模なものになると予想されるので、研修や話し合いを多くして、安全を確保する。森の活動・特にダニに対しての対策を工夫していく。コミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を続けていきたい。
教育課程の整備	・園の教育目標や重点目標を新しい幼稚園要領ともすり合わせて、教育課程および具体的な保育内容についての話し合いを、12月から進めている。詳細を詰めながら、子どもたちの成長をより実現できるよう、チーム内討議を活発化させていく。
保育環境の整備	・園内と園庭の環境整備と保育内容を連動させて、より子どもたちが自主的に活動を選択し、決定し得るよう、同時に学級単位での一斉保育も充実して行えるように工夫していく。
園舎の改修	・今後は手洗い所・トイレなど水回り部分の改修・保育室の拡充が必要。